

地域のコロナ対策体制強化へ

枚方市は平成26年、寝屋川市は平成31年から中核市に移行し、市が直接運営する保健所が設置された。現在、緊急事態宣言が解除されたものの、再度の感染拡大が懸念されている。このリスクに備えるため、両市は新たなコロナ対策を打ち出している。

コロナ対応の体制整備 保健師など6名採用

枚方市は、新型コロナウイルス対応に必要な喫緊の人材確保に加え、中長期的には感染予防や災害時などの健康管理体制の強化を目的に、保健師5名と臨床心理士1名を正職員として6月1日（予定）から採用する。大阪府及び府内保健所設置市ではコロナ禍の正職員の保健師採用は初。（5月21日時点）

また、新型コロナウイルス感染拡大による失職者を対象に、緊急雇用対策として事務補助員10名を採用し、感染症対策に追われている部署に配属する。

ドライブスルー方式で PCR検査体制拡充

寝屋川市は、新型コロナウイルスに感染しているかどうかを調べるドライブスルー方式による検査所の設置を、5月13日の市議会 で議決した。予算額は

人件費、検査委託料など約3千76万円。

現在、感染症の疑いがある場合は、市保健所「帰国者・接触者相談センター」の調整により、市内に複数ある「帰国者・接触者外来」を受診してPCR検査を行っている。新たに、市医師会などと協力してドライブスルー方式の検査所を設置することで、かかりつけ医が必要と判断すればスピーディーな検査が可能になり、「帰国者・接触者外来」の負担を減らし、検査体制も拡充される。

実施場所は非公開。診療日時は月曜日～金

曜日（祝祭日を除く）14時～16時。医師1人、看護師1人、事務員1人の体制で、検体採取数は最大10件。

